

地域コンソーシアムの設立に向けた
調査結果について
【中部地区】

～中部コンソーシアムの活動概略～

中部コンソーシアムの対象地域における知財創造教育実施状況（例）

- 中部地区におけるコンソーシアムは、愛知県を中心とし、静岡県・三重県・岐阜県・長野県も含めて構築した。
- 中部地区における知財創造教育の実施例を以下のように整理した。

知的財産の活用 に対する意識を 持たせる教育					津商業高校		
自身・他人の アイデアを尊重する マインドを醸成する 教育		弁理士会東海支部			富士宮市 弁理士会東海支部		弁理士会東海支部
創造性を育む 教育	東海大学附属 幼稚園	少年少女発明クラブ・発明協会 子どもアイデア楽工			長野工業高校 日本政策金融公庫	沼津工業 高等専門学校	
	幼稚園	小学校	中学校	普通科	専門	高等専門学校	大学
				高等学校			

中部地区で実施した実証プログラム

- 中部地区で比較的实施例が少ない「中学校」および「高等学校（普通科）」を対象として、知財創造教育に関する実証を実施した。

Case 1

学校	公立中学校A
対象学年	一年生
ねらい	まずはアイデア（知的財産）を考えてみることの楽しさを実感してもらう⇒ 創造力育成のきっかけ
実施内容	新聞紙ブリッジ
実施方法	技術科のコマを利用して実施
成果と気づき	<ul style="list-style-type: none"> ● 決まった答えのない課題を与え、それを解決するためのアイデアを自由に考えさせるような手法を取り入れることが、「創造力の育成」に寄与 ● 授業のやり方等を工夫することによって、創造力の育成だけでなく、「他人のアイデアを尊重するマインドの醸成」にもつながる

Case 2

学校	私立高校B（普通科）
対象学年	一・二年生
ねらい	世の中の様々なビジネスに、知的財産が関係していることを認識してもらう⇒ 活用意識の醸成
実施内容	講義 + グループワーク
実施方法	土曜講座（ビジネスプラン）の一環として実施
成果と気づき	<ul style="list-style-type: none"> ● 世の中にあるビジネスが、様々なアイデアや工夫（知的財産）に基づいて成り立っていることを紹介することが、「活用意識の醸成」に寄与 ● 活用意識を醸成するプロセスで、「保護の大切さ」に気付かせることも可能 ● 授業のやり方等を工夫することによって、創造力の育成だけでなく、「他人のアイデアを尊重するマインドの醸成」にもつながる

～知財創造教育の普及・展開に向けた課題～

教育現場への浸透

- 知財創造教育の普及について、特に普通科高校への浸透を課題にあげる声が多い。また、教育現場の特徴や教員不足を課題として挙げる声もある。

分類

コメント例

普通科高校において
知財創造教育の意義が
認知されていない

- 普通科については、知財というキーワードでアプローチすると、**関係ないと思われる**。
- 普通科高校の生徒は、大学受験に向けた通常授業が忙しく時間が取れないのだろう。
- 毎年出張授業の**依頼があるのは、専門科がある高校だけ**であり、普通高校からは一度も依頼が来たことはない。

知財創造教育の取組が
学校組織に定着しない

- 4、5年続けて出張授業等を行っていても、窓口となる**担当教員が異動になると、その後依頼が途切れてしまう**。
- 学校の**管理職の意識が変わらないと知財教育を普及させることは難しい**のではないかと思う。
- 現場の教員は数年で異動になることもあり、たとえ校内で知財創造教育に取り組んでいる先生がいたとしても、その先生がいなくなったら知財創造教育を実施できなくなってしまう。
- 技術科の教員に対しては浸透させやすいと思われるが、それ以外の教員に対してどのように浸透させていくか、というところに課題があると考えている。

教育現場が動きにくい

- 教育現場の実態として、**トップダウンで上から指示がおりてこない限り現場が動くことはなく**、決して現場が自発的に取り組むということは期待できない。
- **校長や教育委員会に対して知財創造教育に関する優良事例を紹介**することが効果的だと思う。

知財創造教育を実施
できる教員がいない

- 現場を仕切る教員に知財の重要性が認識されていないため、**教員教育も実施していくべき**である。
- 学生への教育も重要であるが、それを**教えられる教員がほとんどいないという点は課題**である。
- 学校に出張授業を提供する機能として、地域コンソーシアムがあるのはよいが、将来的には教員が自身の**授業の中に自然と知的財産に関連したエッセンスを盛り込めるようになることがゴール**の一つだと思う。

「知的財産」の認知度が
低い

- 教育は社会に必要であるから実施するものであるが、世の中で**知財の重要性がまだまだ認識されていない**と感じており、この現状が知財創造教育の普及の阻害要因であろう。
- ネーミングは非常に重要であり、残念ながら**「知財」はまだまだニッチな分野**であり、ピンとこない人が多いということであると思う。知財創造教育は適宜別の表現をしていくことが重要だろう。

地域コンソーシアムの構築

- 地域コンソーシアムの構築を促進していくには、地域における教育提供者等の役割整理が必要であるとの指摘があった。また、地域の企業を巻き込んで、その地域に根差したカリキュラム等を検討することも重要であるとの声もあった。

分類	コメント例
役割の整理が必要	<ul style="list-style-type: none">• 既存の取組みについて、それぞれの思い入れを汲み取り、上手に束ねてあげるのが、コンソーシアムの近道かもしれない。• コンソーシアムを頼れば、創造性のあふれた子供になるというイメージを抱かせることで、学校も親も行かせたくなる仕組みが必要だろう。そのために、各々がどのような役割を果たせるかを検討する必要がある。
参加する意義の明確化	<ul style="list-style-type: none">• コンソーシアム構築を行う際は、参加者にとってメリットのある仕組みとすることが求められるであろう。
地域企業の協力	<ul style="list-style-type: none">• 学校内の教育だけだと、どうしても視野が狭くなりがちであるが、外部リソース（地域企業等）を活用することで、生徒がいま勉強していることが、社会でどのように活用できるのかをイメージしやすくなる。• CSRに熱心な企業であれば、比較的協力してくれるのではないか。• 地域にコンソーシアムに「教育委員会・学校・企業」を巻き込み、これまでの枠組みを超えた取り組みを行うことが求められるだろう。
地域に根差したプログラムの提供	<ul style="list-style-type: none">• 東海地域はものづくり企業に恵まれており、地域に根ざした企業が多く存在している。地域学習（ものづくり郷土史・産業史）を入り口に、創造性教育へとつなげていくカリキュラムも考えられるだろう。• 愛知県においては、ものづくり人材の育成を重視すべき風潮がある。知財創造教育を後押しするこの風土を活かしていけたらよいのではないか。